

授業の実際 1 / 9

(1) 指導目標

「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて歌う学習に主体的に取り組むことができるようにする。

過程	学習活動	教師の指導 (○)、支援 (●)、発問 (★) 児童の主な反応 (・)	評価規準と評価方法
導 入	<p>0 音楽遊びをする。</p> <p>1 めあてをつかむ。</p>	<p>○和音当てクイズをして、楽しく学習が始められるようにした。</p> <p>○修学旅行で見た星空の写真を提示し、美しい星空を想像させた。</p>	
展 開	<p>「星の世界」の曲の感じをつかみ、主な旋律を歌おう。</p> <p>2 曲の感じつかみ、自分ほどのように歌いたいか見通しをもつ。</p> <p>(1) 「星の世界」を聴く。</p>	<p>○「星の世界」の歌詞を音読して聴かせ、写真を基に、歌詞の意味を説明した。</p> <p>○斉唱と三部合唱とを比較聴取させ、それぞれのよさや美しさについて考えさせるようにした。</p> <p style="text-align: center;">発問の工夫①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★今から2つの「星の世界」を聴きます。それぞれ、どのような星の世界を想像しますか。なぜ、そのように感じたと思いますか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>〔1回目〕 斉唱</p> <ul style="list-style-type: none"> 澄んだ星空。 星がきれいな夜空。 星が輝いている。 <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 主な旋律がはっきりしていて、声がぴったり合っているから。 歌詞が、はっきりと聴き取れるから。 </div> </div> <div style="width: 45%;"> <p>〔2回目〕 三部合唱</p> <ul style="list-style-type: none"> きれい！ 星が多くて、まぶしい。 星の世界が、遠くて広い。 <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 三部合唱になっていて、大勢の音が響き合っているから。 歌声が響き合って、音楽にふくらみがあるから。 </div> </div> </div> </div> <p>○想像した「星の世界」を発表させ、それぞれの響きの美しさを全体で共有させた。</p> <p>(2) 聴き取り、感じ取ったことを「音楽を形づくっている要素」と関連付けながら、曲のよさや美しさをつかむ。</p>	
		<p>○楽譜を見せながら本題材で使用する「星の世界」を聴かせ、斉唱と三部合唱のどちらの要素もあることに気付かせるようにした。</p> <p>○斉唱と三部合唱の部分があることに気付かせることで、「星の世界」の音楽の構造のよさに気付かせるようにした。</p>	

展		<ul style="list-style-type: none"> ●どのように歌いたいか見通しをもつことができない児童には、友達の発表内容や板書内容を参考にさせた。 ○歌詞に着目して見通しを書いた児童の発表内容も、その価値を認めた。 ○1つの旋律に重なる部分と3つの旋律が重なる部分を、それぞれどのように歌いたいか考えたことを発表させ、共有できるようにした。 	
開	<p>3 音の動きに気を付けながら、主な旋律を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○3回の聴取で主な旋律の大体を覚えた児童を紹介し、学習意欲を高めさせた。 ○歌詞を再度音読し、歌詞の意味を考えながら主な旋律を覚えることができるようにした。 ○見通しを基に、主な旋律の歌い方を工夫しながら歌うように助言した。 ○1、2、4フレーズ目は、反復になっていることを伝え、主な旋律を覚えやすくした。 ○CDに合わせて歌わせることで、旋律が1つになる部分と3つの旋律が重なる部分を意識して歌うことができるようにした。 ○高音から始まる出だしの発声や呼吸に気を付けて歌うと、更に豊かな響きになることを助言した。 ●音程やリズムをつかむことが難しい児童に対しては、鍵盤ハーモニカで演奏をして聴かせ、旋律をつかむことができるようにした。 	
／ ま と め	<p>4 次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを振り返らせ、次時への意欲を高めるようにした。 	

授業の実際 2 / 9

(1) 指導目標

「星の世界」の副次的な旋律について、和声の響きの美しさを感じ取りながら歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもつことができるようにする。


(2) 展開

過程	学習活動	教師の指導 (○)、支援 (●)、発問 (★) 児童の主な反応 (・)	評価規準と評価方法
導 入 ／	0 音楽遊びをする。 1 めあてをつかむ。 (1) 「星の世界」の主な旋律を歌う。 (2) 本時のめあてをつかむ。	○リコーダーで和音づくりをして、楽しく学習が始められるようにした。 ○のびのびとした美しい声で歌わせた。	
	2 和声の響きを感じ取りながら、歌い方を工夫する。 (1) 担当するパートを選ぶ。 (2) どこを、どのように歌いたいか考える。	○各小節ごとに音を伸ばし、2つの副次的な旋律が和音になっていることを確認した。 ○2つのパートを1回ずつピアノに合わせて歌わせてから、自分の音域に合うパートを選ばせた。 ○前時に全体でまとめた見通しを確認した。	
展 開	<p>〈前時の学習内容〉</p> <p>★曲のよさや美しさが伝わるように、どのように歌いたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和音がぴったりと合うように、互いに声をよく聴いて、響き合うように歌いたい。 ・3つの旋律のリズムを合わせて、溶け込むように歌いたい。 ・3フレーズ目は、特に3つの旋律のリズムをぴったり合わせて、一体になって歌いたい。 		
		<p style="text-align: center;">発問の工夫③</p> <p>○前時に考えた見通しを基に、どこをどのように歌うかを考えさせることで、前時と本時の学習がつながるようにした。</p> <p>○旋律が1つになる部分と3つの旋律が重なる部分に分けさせ、それぞれの部分について考えることができるようにした。</p>	
	<p>★「声が響き合う」「声が溶け込む」ように、どこを、どのように気を付けて歌いたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三部合唱の部分は、歌い出しのタイミングを合わせて歌いたい。 ・きれいな和音になるように、正しい音程で歌いたい。 ・旋律が1つになるところは、ずれないように、リズムや音程を合わせて一体感が出るようにしたい。 		

展	<p>(3) グループで歌い方を工夫する。</p>	<p>○グループで話し合う前に、まず、自分の考えをワークシート（楽譜）に記入させた。</p> <p>○グループでどのように歌いたいかについて話し合わせ、それぞれの考えを共有させた。</p> <p>○グループを2つに分けて、歌う側と聴く側になり、互いにアドバイスをを行うことができるようにした。</p> <p>○グループに1台ずつキーボードを準備してグループで音程を確認しながら練習ができるようにした。</p>	<p>「星の世界」の和声の響きや音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取って歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図もっている。</p> <p>【創① ワークシート・行動観察】</p>
	<p>(4) 成果発表をし、感想を伝え合う。</p>	<p>○グループを2つに分けて、歌う側と聴く側になり、互いにアドバイスをを行うことができるようにした。</p> <p>○グループに1台ずつキーボードを準備してグループで音程を確認しながら練習ができるようにした。</p>	
開	<p>(5) 副次的な旋律を合唱する。</p>	<p>○CDに合わせて歌わせることで、和声の響きの美しさを感じ取りながら三部合唱ができるようにした。</p> <p>○CDに合わせて歌わせることで、旋律が1つになる部分と3つの旋律が重なる部分を意識して歌うことができるようにした。</p>	
	<p>(3) グループで歌い方を工夫する。</p>	<p>○グループで話し合う前に、まず、自分の考えをワークシート（楽譜）に記入させた。</p> <p>○グループでどのように歌いたいかについて話し合わせ、それぞれの考えを共有させた。</p> <p>○グループを2つに分けて、歌う側と聴く側になり、互いにアドバイスをを行うことができるようにした。</p> <p>○グループに1台ずつキーボードを準備してグループで音程を確認しながら練習ができるようにした。</p>	

発問の工夫③

★「声が響き合う」「声が溶け込む」ように、どこを、どのように気を付けて歌いたいですか。

- ・ 1小節目と3小節目の歌い出しが遅くならないように歌いたい。
- ・ 8回反復される  のリズムがずれないように、しっかりリズムをつかんで歌いたい。
- ・ 歌い出しは、はっきりと声を出して、正しい和音で歌いたい。
- ・ 3フレーズ目の2番目の音が下がらないように気を付けたい。

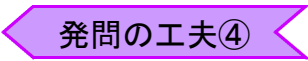
／ ま と め	4 次時の学習を知る。	○グループで書き込んだ拡大楽譜は、次時の学習で使用できるように掲示した。 ○次時は、三部に分かれて合唱することを伝えた。 ○本時のめあてを振り返らせ、次時への意欲を高めさせた。	
------------------	-------------	--	--

授業の実際 3 / 9

(1) 指導目標

「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて合唱することができるようにする。

(2) 展開

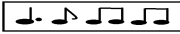
過程	学習活動	教師の指導 (○)、支援 (●)、発問 (★) 児童の主な反応 (・)	評価規準と評価方法
導 入	0 音楽遊びをする。 1 めあてをつかむ。	○ケチャのリズム遊びをして、楽しく学習が始められるようにした。 ○「星の世界」の範唱を聴き、三部合唱のイメージをつかませるようにした。	
展	2 和声の響きを感じ取りながら、歌い方を工夫する。 (1) 担当するパートを選ぶ。 (2) グループごとに工夫するポイントや気を付けることを話し合う。	○ケチャのリズム遊びをして、楽しく学習が始められるようにした。 ○「星の世界」の範唱を聴き、三部合唱のイメージをつかませるようにした。 互いの声を聴き合って、美しい響きの三部合唱をしよう。 ○グループごとに工夫をした後で、全体で歌い方の工夫することを伝えた。 ○主な旋律を担当したグループには、1・2時目の学習を生かして取り組むように伝えた。 ○1つの旋律になる部分と3つの旋律が重なる部分に分けさせ、それぞれの部分について工夫を考えることができるようにした。 ○前時までの工夫を基に、工夫を重ねる必要があるポイントを2～3つ決めさせた。 ○グループごとに気を付けることについて考えさせ、練習に目的をもって取り組むことができるようにした。 ○工夫するポイントや気を付けることの例を示した。	
開	工夫の仕方の例 <工夫するポイント> ・歌い出しが、正しい音程になるようにする。 <気を付けること> ・前奏をよく聴いて、はじめに出す音の高さを心でイメージする。 <確認の方法> ・はじめの音だけを伸ばして、正しい音程になっているか練習する。 ・キーボードで音を確認しながら工夫する。		
			
	★「声が響き合う」「声が溶け込む」ように、それぞれの工夫のポイントについて、どのようなことに気を付ければよいと思いますか。 <工夫するポイント> ・1小節目と3小節目の歌い出しが遅れないように歌いたい。 <気を付けること> ・歌い出す前のブレスを合わせるようにする。		

展

<工夫するポイント>

- ・ 8回反復される  のリズムがずれないように歌いたい。

<気を付けること>

- ・  のリズムを手拍子で確認して、リズムを正しく正しくつかんでから歌う。

<工夫するポイント>

- ・ 歌い出しをはっきりと声を出して、正しい音程で歌いたい。

<気を付けること>

- ・ はじめの音だけを伸ばして、正しい音程になっているか確認する。

<工夫するポイント>

- ・ 3フレーズ目の2番目の音が下がらないように歌いたい。

<気を付けること>

- ・ 音が下がっているときは、目を大きく開いて、頬を引き上げるようにして歌う。

開

- (3) グループで歌い方を工夫する。

- 工夫するポイントと気を付けることをワークシートに記入させた。
- 歌い試しながら、気を気を付けることを考えることができるようにした。

- ワークシートに自己評価をさせながら表現を工夫させ、目的意識をもつことができるようにした。

- ペアや個人で練習できる場所を設けていることを伝えた。

- グループで聴く側と歌う側に分かれて感想や助言を伝え合うように指示した。

- グループに1台ずつキーボードを準備し、自分たちで音を確認しながら自主的に練習ができるようにした。

- 本時で考えた工夫や友達や指導者からの助言は、2時目のワークシートに直接書き加えてよいことを伝えた。

発問の工夫④

- (4) 三部合唱をし、全体で工夫するポイントを確認する。

- 三部合唱をして、全体で工夫するポイントや気を付けることについて考えさせた。

★「声が響き合う」「声が溶け込む」ように、それぞれの工夫のポイントについて、どのようなことに気を付ければよいと思いますか。

<工夫するポイント>

- ・ 主な旋律が目立つように音量の工夫して歌いたい。

<工夫の仕方>

- ・ 主な旋律を強く、副次的な旋律を弱めにしてバランスよく歌う。

展	<p><工夫するポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 溶け込むような合唱にするために、独特な声は出さない方がよい。 <p><工夫の仕方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地声ではなく、頭声を心掛ける。 	
	<p><工夫するポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3フレーズ目は全員で歌い方を合わせたい。 <p><工夫の仕方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フレーズの真ん中に山をつくるように、みんなで強弱を合わせる。 	
開	(5) 全体で歌い方を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の響きを聴いて、更に工夫が必要だと気付いた点を発表させ、全体で共有できるようにした。 ○ 互いのグループの工夫点や良かったところも発表させ、自分たちのパートに生かすことができるようにした。 ○ 時間短縮のために、部分的に練習をさせた。 ○ 互いのグループで感想や助言を伝え合わせ評価させながら工夫させた。 ● 自分の声を友達の声と調和させて合唱することができない児童には、適宜、個別で技能の習得につながるような助言を行うようにした。また、ペアで個別に工夫ができる場所を設け、友達と練習ができるようにした。
	(6) まとめの三部合唱をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 録音して三部合唱を聴かせ、成果を自覚できるようにした。
	3 次時の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時は、「雨のうた」の合奏に取り組むことを確認した。 ○ 本時のめあてを振り返らせ、次時への意欲を高めさせた。
／ ま と め	<p>「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて合唱している。</p> <p>【技① ワークシート・演奏聴取】</p>	